

院長のご挨拶 —2020 年にあたって—

令和に年号が変わり、初めての年始を迎えました。本年は東京オリンピック・イヤーでもあり、日本中に活気が出ることを期待しています。一方、大和高田市立病院におきましては、「（仮称）将来のあり方検討委員会」の立ち上げを計画しており、今後に向けて、非常に重要な年になると考えております。



現在、少子高齢化に加えて、地方都市を中心に、急速な人口減少が進行しています。大和高田市では、1995年の総人口73,806人をピークに人口減少に転じ、現在は、総人口が64,685人ですが、2040年の推計では、47,798人まで減少することが予測されています。このように、急激に医療需要が変化することが予想される中にあっても、私たち大和高田市立病院には、中和医療圏の基幹となる自治体病院として、将来にわたって、住民の方々に安心・安全の医療を提供し続ける使命があります。地域医療構想を進める中、先述の如く、本年は、「（仮称）大和高田市立病院の将来のあり方検討委員会」を立ち上げ、今後の大和高田市立病院が果たすべき役割とあるべき姿（機能・規模）を検討し、病院の建て替えを含めた病院の将来設計を行う予定です。以下、本年の抱負を述べさせていただきます。

先ず救急医療については、一昨年10月に、葛城地区の二次救急輪番を立ち上げ、地域における救急車応需率の向上や応需決定までの時間短縮などの成果が得られるようになりました。しかし、当院単独では、昨年の救急車応需率が前年を下回ってしまいました。医師不足など、様々な要因が挙げられますが、病院全体で課題の克服に取り組み、「断らない救急医療」を、改めて目指したいと存じます。

次に、昨年の日本の出生数が、1899年に統計を取り始めて以来、初めて90万人を割り込み、改めて、急速な少子化が浮き彫りになりました。これに反して、当院では、長年、周産期医療に注力し、安全に分娩が行えるように、産婦人科と小児科に十分な医師を配置して、分娩毎に密に連携する体制を築いています。このように、現在の当院の体制は、住民の方々に、満足いく周産期医療を提供できるものと考えます。当院の周産期医療の充実により、大和高田市の急速な人口減少が少しでも緩和されることを願っております。

また厚生労働省から全国の病院に改善の指令が出ました、医師を含む職員の「働き方改革」については、現在、取り組みを始めたところです。実働時間の把握などの労務管理や有給取得の厳守などを進めています。解決すべきことが数多くありますが、各種職員の人員確保、多職種連携によるチーム医療の推進や様々な職種の方々に仕事の分担をお願いするタスクシフティングによって、徐々に改善できればと考えております。

さらに院内改革も進めています。本年度の病院目標でもあります会議・委員会体制の見直しや数値目標による部門管理など、院内組織の整備を行っています。このような院内の整備は、病院全体のガバナンスの強化に繋がり、最終的には地域医療への貢献などにも寄与するものと考えます。まだまだ道半ばであり、引き続きの改善を目指します。

最後に、私たち大和高田市立病院のスタッフ一同は、地域の基幹の自治体病院として、地域医療に貢献し、中和医療圏の地域医療構想の確立に向けて、全力で取り組んでまいります。地域住民の皆さまには、今後も、ご支援とご協力をお願いいたします。

令和2年1月1日

大和高田市立病院 病院長 岡村隆仁